

乳幼児と音楽の関わり

－0～1歳児における音楽への感性と表現－

木村 祐子

The Influence of Music on Infants
Sensibility and Expression of 0 to 1 Year Old Babies Towards Music

Yuko KIMURA

キーワード：やすらぎ 楽しみ

1. はじめに

保育園には小さな幸せがたくさん詰まっている。しかし、4月の新学期は戦争である。新入園児は母親から離れるのを嫌がり、泣き叫ぶ子・「ママがいい、ママがいい」と言い続ける子・玄関から離れない子などさまざまである。在園児も3月までの生活と一変し、不安の中赤ちゃん返りしてしまう子も少なくない。しかし、次第に笑顔も出て園の生活に慣れていく。

0歳児クラスのT君は、そんな泣いてばかりいる男の子だった。T君は泣く以外に大きな問題点があった。それは、ミルクどころか水も飲もうとしないということだった。スプーンで白湯を飲ませようとしてもかたくなに拒み、口を閉じ首を振る。ならし保育（2時間程度）から延長することは不可能だった。

5月の連休も終わると保育園は次第に落ち着いてくる。他の園児たちはミルクを飲み食事をするようになっていたが、相変わらずT君は何も口にできなかった。

ある日、いつものように不安そうなT君を

抱っこしていると、隣のクラスの部屋からCDの音楽が流れてきた。ふとT君を見ると、穏やかな表情で目をキラキラさせその音楽に聞き入っていた。抱っこしていた小さな身体も緊張から解け、リラックスした状態に変化していた。それに気がついた保育士はなるべく音楽を聞かせるように試みた。そして、それをきっかけにT君は少しずつ園の生活に慣れ、ミルクを飲み食事もできるようになった。不安の中にいたT君にとって音楽は最初に見つけた“やすらぎ”であった。

0～1歳の、まだ歌うことも踊ることもできない乳幼児は、音楽をどのように感じ、どのような過程で表現するようになるのだろうか？現役の保育士の体験談を基に検討したいと思う。

2. 体験談を基にした考察

・赤ちゃんとオルゴール

生まれたばかりの新生児は睡眠の時間が長い。しかし月齢が上がるにつれ次第に眠る時間は短くなっていく。

保育園の0歳児クラスでは、午前・午後2回午睡の時間がある。新入園児は家庭と違う雰囲気になじめず、なかなか眠りにつくのは難しい。しかし、保育士の工夫と経験・努力により次第にそれぞれの眠りの型を探り眠れるようになっていく。

その際しばしばゆっくりとした子守唄のオルゴールの音楽が流される。オルゴールの音は、脳幹の血流を促進し、神経とホルモンの分泌を正し、心を落ち着かせる効果があるという。午睡のたびに同じオルゴールの音楽を聞かせることにより、次第にそれが眠る儀式となり、午睡の導入の音楽として変化していく。そのオルゴールを聴くだけで眠りにつくようになるのだ。

・お気に入りの歌

K君は生後6カ月で入園した。やはり最初は園に慣れず泣いていることが多かった。ある朝母親がK君を保育士に預けると、「この子は“げんこつ山のたぬきさん”が大好きなんです。歌ってあげてください。」とお願いした。

げんこつやまのたぬきさん
おっぱいのんでねんねして
だっこしておんぶして またあした

手遊び歌である。K君は泣き始めたので早速この歌をうたってみた。なるほど、泣きやんだ。この歌をうたうと機嫌が良くなった。K君もこれを機に次第に園に慣れていった。

・童謡・手遊び歌

お座りができるようになると、手が自由になり、上半身を動かすことができるようになる。保育士の絵本の読み聞かせもお座りをしよく見るようになる。拍手も上手になり、歌に合わせて手拍子をしたり体を揺らしたり、音楽を身体で楽しんでいるように見える。

保育士が歌う童謡や手遊びも大好きだ。

ぞうさん・かえるのうた・犬のおまわりさん・
ちょうちょう・ぶんぶんぶん・むすんでひら
いて・きらきらぼし・大きな栗の木の下で・
ちゅーりっぷ・ぱんだうさぎこあら 等々1
歳ごろになると「ママ」「ブーブー」「ワンワ」
など片言の言葉を発するようになる。Hちゃん
は歌が大好きな女の子。いろいろな歌を覚え
ようとしていた。

(どんぐりころころどんぶり)「コー」
(おいけにはまってさあたい)「へー」
(どじょうがでてきてこんにち)「ワー」
(ぼっちゃんいっしょにあそびま)「ショー」

といった具合に保育士の歌を良く聞きながら、
まずは最後の一語だけ一緒に歌い、日が経つ
につれて言葉らしくなっていく。また、手遊
びも保育士の動きをよく見ていてできる仕草
から真似をするようになる。よく練習する子
は上達も早く上手になる。

・外国の曲

きらきらひかる おそらのほしよ
まばたきしては みんなをみてる

きらきらひかる おそらのほしよ

1 歳児の Y 君は“きらきらほし”が大好きだった。なかなか園になじめず目にいっぱい涙をためてよく泣いていた。いろいろな歌を聴いてもあまり興味を示さなかったが、ある日保育士が“キラキラ星”をうたうと泣きやむようになった。

Y 君の母親はカナダ人であった。日本人の家庭とはやはり音楽も違っているのかもしれない。“キラキラ星”は聞いたことのある安心するメロディだったのだろうか？

・楽器

音楽のメロディやリズムを好きになる子はたくさんいるが、R 君は楽器に興味があった。保育士がブロックで笛などの楽器を作ってあげるととても喜び、持ち歩き吹く真似をしていた。

1 番好きなのはピアノで、保育士がピアノを弾くとじっと見ていた。歌はほとんどうたわなかったが、1 曲終わるとまた弾いてほしくせがんだ。そのうち柵をピアノに見立て弾くしぐさをしていた。それが上手で本当にピアノを弾いているようだった。将来はピアニスト？

・エビカニクス！

秋になり運動会が近付くと準備運動やダンスなど毎日練習するようになる。

この年は“エビカニクス”を毎日踊っていた。これは保育園や幼稚園に人気の楽曲とダンスである。歌っているのは「ケロポンズ」という 2 人組のユニットで、エビとカニの格好を

して歌に合わせてダンスを踊る。皆大好きなので、上手に踊れなくてもそれなりに体を動かして楽しんでいた。

ある日、0 歳児クラスでは午前中の午睡に入っていた。タイミング悪く隣の部屋から“エビカニクス”が流れ出した。すると、眠っていたと思っていた K ちゃんが突然むっくり起きだし“エビカニクス”を踊りだした！体が音楽に反応して勝手に動き出したのだ。非常に驚いたが、まるでお人形が踊っているようでとてもかわいらしかった。

・おもちゃのチャチャチャ

おもちゃのチャチャチャ

おもちゃのチャチャチャ

チャチャチャ おもちゃのチャチャチャ

そらにキラキラおほしさま

みんなすやすやねむころ

おもちゃははこをとびだして

おどるおもちゃのチャチャチャ

おもちゃのチャチャチャ

おもちゃのチャチャチャ

チャチャチャ おもちゃのチャチャチャ

乳幼児に大人気の童謡である。0～1 歳児でも、「チャチャチャ」で手拍子をしたり、手作りのマラカスや鈴を振りながら音楽を楽しむ。

チャチャチャはキューバの踊りのリズムである。この歌は日本で最初にエイトビートを用いた童謡であり、子供たちに調子のよいチャチャチャの声かけがうけ昭和 36 年に大ヒットした。

幼児の音楽は、その心臓の鼓動（成人より少し速い）に準じているといわれているが、まさにそこにもはまったのではないかと思われる。

・映像と音楽 “カフカフカフカ”

世界が認めた「子供が泣きやむ動画」である。LOTTE のキャンディ「カフカ」のプロモーション動画で、3 年ほど前に話題になり、昨年 6 月には国際広告賞「カンヌライオンズ国際クリエイティビティ・フェスティバル」のサイバー部門にて銅賞を受賞した。何が子供にとって魅力があるのだろうか？ほのぼのとしたカフカ君（ぬいぐるみ）がキャンディを食べるというアクションを通じて、その動きを大胆にしたり、音楽の曲調が緩やかなものから一転してアップテンポになったり、コロコロと変化し飽きさせないのだそうだ。

ノートパソコンの You Tube の動画はいつでも簡単に見ることができる。まさに現代の幼児音楽の象徴である。

3. まとめ

0～1 歳児は人間の成長の中で最も変化が著しい。ほとんど動けない新生児が、次第に手足をバタバタさせ、寝がえり・はいはい・つかまり立ち・歩行ができるようになる。「おギャー」という鳴き声も次第に要求によって変化し、「ウマウマ」「あぶあぶ」から「ママ」「プープー」「まんま」といった意味のある単語を話すようになる。そして言葉を覚えていく。

音楽は乳幼児にとって心の安定を感じさせ

るものであり“やすらぎ”である。初めは手拍子や 1 語だけの歌であるが、成長と共に音楽を声や身体で表現し楽しむようになる。

ミュージックという西洋語はムジカというラテン語から来ている。ムジカは音を楽しむということから発している。それを昔の中国人が音楽という漢字に当てはめたといわれている。

人間の第一歩、乳幼児にとって「音楽は楽しい」「音楽で楽しむ」を経験することが非常に大切である。また、音楽療法において、古来音楽にはそれを聞いて「心を鎮める」とか「浮き立たせる」などの効用がある。今回の考察では、乳幼児がそのような音楽の本質を改めて認識させてくれたように思う。我々音楽教育者はそのことを忘れてはならない。

参考文献

- クラビ・ロビンズ 「音楽する人間」 春秋社・2007 年
西村尚子 「3 歳までに脳で何が起きているか？」 技術評論社 2012 年
服部公一 「童謡はどこへ消えた」 平凡社新書 2015 年

協力者

東京都認証保育所 MOMO の家保育園 保育士 蛭名沙織・櫻田谷子